

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「その人がその人らしさを発揮し心身共に安心して生活が出来る場となる様支援します」と言う理念を上げ、利用される方の支援にあっている。	理念を忘れずに利用される方の支援にあたっていく。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	運営理念を目標とし、理念に近づける様に心掛けている。	職員各自が、何をするにも理念を忘れずに支援にあたっていきたいと思う。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域の人々が見学などに来られた時に、理念を伝えるようにしている。	職員は理念を目標に利用者支援し、家族の方などに理念を言葉で伝えるだけでなく、その様子を見て理念を理解してもらえようでありたいと思う。
その人			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	地域の方が気軽に立ち寄ってもらえるような感じではないが、畑作業や散歩に出る時などに挨拶を交わしたり、少しずつ、付き合いが広がっていると思う。	今後も継続的に関わりを持てるような関係になりたいと思う。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	散歩や外出の機会を設け地域の方々と交流して行きたいが、利用されてる方の体力的な問題もありなかなか難しい状態である。しかし、地域のボランティアの方の踊りなどの訪問があり交流が図れている部分もあると思う。	いつも買い物をしているお店などから最近いろいろと協力をしてもらっている。少しずつ周囲とのつきあいが出ていると感じている。そして、周囲の人の温かさを感じた。利用者もその温かさが伝わり、感じられるような関係になっていきたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方々の見学等受け入れている。また、学生等の実習の受け入れも行っている。</p>		<p>複合施設のため、グループホーム単体での地域貢献以外にも何らかの貢献ができると思う。今後どんなことができるかを考えて取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>義務だから実施するのではなく、いろいろな面から評価の意義を考え、実際に実施し評価の活かし方を模索している状況。</p>		<p>自己評価及び外部評価を行うことで、自分たちの介護に対する考え等を見直して、より良いサービスを提供できるようにしていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>なるべく定期的に会議を開催するようにしている。そこで、現状の報告や、相談などをし、意見やアドバイスなどをもらっている。</p>		<p>自分たちは会議をまだ十分に活かさない状況だと感じている。回数を重ねるごとに、サービスの向上につながるような意義のある会議を行なっていきたいと思っている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>以前より市町村との関係が身近に感じられる気がしている。大きなきっかけは運営推進会議だが、いろいろとサービスの質の向上のために相談に乗ってもらっている。</p>		<p>より市町村と連携しサービスの質の向上を目指したいと思う。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>講習会等に参加し、また定例会議でそれを話し合い、その事業や制度について周知する機会を設けており、努力している。</p>		<p>今後も学ぶ機会を設けていかなければならないと思う。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関する研修などに参加している。日頃、職員は虐待が発生しないよう注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>利用者の自宅等で起こる事に対しては早期発見し関係機関と協力し対応する。また、事業所内では虐待が起きないように職員一人一人の意識を高め、維持していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族が不安や疑問等を持ったまま、契約、解約を行うことの出来ないよう出来る限りの説明を行わせてもらっている。</p>	<p>職員の誰もが、利用者や家族の持つ不安や疑問に対して、きちんと説明が出来るような体制をめざしたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意向を探り、家族を中心に運営推進会議の場などで、伝えたり相談したりしている。</p>	<p>利用者が意見・不満・苦情・要望などが言いやすい雰囲気大切にしていきたい。また、出た意見等に関してはちゃんと考えて対応をしていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎日の暮らし方を生活記録に記載し、健康チェックを行っている。その変化やサインを記録し状態に変化が見られた場合は早急に家族に連絡を行っている。面会時日頃の様子等報告している。</p>	<p>定期的に詳しく利用者の状況を報告できていない家族もあり、改善していきたいと思う。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談、苦情の窓口を設置している。運営推進会議などで、家族の方々との交流を設け意見交換をしている。</p>	<p>要望・苦情・不満などを家族等が意見を述べやすい雰囲気をつくっていききたいと思う。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に各ユニットでの会議や全体会議を行っており、その際に意見交換等を行っている。</p>	<p>誰もが発言できる雰囲気を大切に、些細な事でも発言・提案し、その事について話し合い、より良いサービスへと繋げていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>今現在は十分に対応が取れている。</p>	<p>今後、利用者の状態等によって勤務時間帯等の変更が必要となった場合には、よく話し合いをし考えた上で勤務の調整にあたりたいと思う。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動などが少ないため、馴染みの関係に急激な影響はみられていない。</p>	<p>利用者への気遣いを忘れずに対応していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務の中で助言や指導、資料の提供が行われ、そして定期的に会議を開催し意見交換を行っている。また、複合施設の為、合同の研修、講習会に参加したり、専門職の方から助言、指導を随時もらっている。		助言・指導・資料の提供、研修や講習会への参加、マニュアルも作っていきたく考えている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業者同士で、定期的に交流会が開催され、意見の交換などが行われている。		交流会を通じて、意見交換等を行いサービスの向上に努めたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員相互の親睦がとれており、定例会議などでも自然と悩みなどを相談しあっている。		各職員がそれぞれに相手を理解し受け入れており、互いをフォローしながら、また一人だけに負担が行かないように配慮している。今後もこの関係を大切にしていきたいと思っている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の勤務状況等を把握している。また、職員は勤務終了後、業務を振り返って反省や気づきを業務日誌に記録し、日々向上心を持ち業務にあたっている。		継続し行い、各自が向上心を忘れずに業務にあたりたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学の際や事前訪問の時など、本人と話す機会を設け、状態の把握や困っていること、不安に思っていること等をよく聴くように努めている。		本人が安心して話ができるような職員の対応を心掛けたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム見学の際や事前訪問の時など、家族と話す機会を設け、家族の状況や困っていること、不安に思っていること、また家族からの要望等をよく聴くように努めている。そして入居に至るまで連絡を取り合い、その都度話を聴くようにしている。		家族が安心して大切な家族の一人を預けられるように、現在以上に家族がどんな事を求めているかを気づき、入居に至るまでの経緯の中で信頼関係を築いていきたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からよく話を聞き、何を必要としているのかを探り、このホームについての事や、他のサービスの事についての情報提供などができるよう心がけている。		常に本人や家族の求めているものを理解し、協力できるような体制でありたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が来園出来る場合は来園してもらい他入居者の方と共にお茶を飲んだりしてつろいで頂いたりしている。本人が来園出来ない場合は家族の方にホームを案内し、場の雰囲気を知って頂いたりしている。		今後も家族等と相談しながら対応していきたいと思う。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や日課を入居者、職員一緒に楽しみながら行っている。入居者から教えられる事も多くあり、良い関係を築けている。		利用者の方に対し、介護する側・される側という関係ではなく、お互いに一人の人間として、家族のような関係を築けるように、職員一人一人が努力していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と一緒に利用者を支えるために、本人の状態などをお互いに把握し、共に支えていく関係を築けるように心掛けている。		全ての家族の方々と情報の共有が出来ているわけではないので、どの家族の方とも情報を共有し、家族と職員とが一丸となって本人を支えていけるようになりたいと思っている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と、その家族とがどのような関係だったのかを、いろいろな場面で話を聞いたりして理解に努めている。		利用者とその家族がどのような関係だったのかを、いろいろな場面で話を聞いたりして理解に努め、利用者や家族が求めている関係になるように協力していく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者にとって、なじみの場所に行きたい時に行ったり、会いたい人に会ったりと言う事は、うまくできていない。		できることがあれば可能な限り支援していきたいと思う。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お茶の時間やレクリエーション等にいろいろな話題を出すようにし、皆で会話を楽しめるようにしている。又、利用者同士が話や何かをしている場合にはその様子を見守り危険が予測されたり、喧嘩などのトラブルが発生した場合は間に入ったり、必要な部分を支援するようにしている。		利用者同士の関係も理解しながら、個人単位や集団単位で関わりを支援していきたいと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の生活に関しても可能な限り支援をするようにしている。ホームを退居されて、併設の施設へ移動された方とは、一緒にレクリエーションを楽しんだり、機会があれば家族の方とも交流することがある。		退居された方から質問や相談があった場合には、できる限り支援していきたい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個人に合わせた言葉掛けをするようにし、その人がされたいこと・されたくないことを考え生活のあらゆる場面で本人の意思決定を行えるようにしている。本人の希望はなるべく叶えられるようにしている。また、拒否があった場合は無理強いせず本人の好きなようにしてもらい、見守るようにしている。		本人の希望をなるべく叶えられるようにしているが、日課とのバランスをとりながら、個々に自分の時間が持てるように支援していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を知り、その人に合わせた活動や生活が出来るようにしている。職員と共に若い頃の事などを回想し、色々とお話することで信頼関係を築いていると思う。		継続して利用者個人を理解するように努め、支援にあたりたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員の申し送りや、申し送り簿を活用し情報が確実に伝わるように行っている。		申し送り以外でも、常に職員同士意見の交換を行い、介護職だけではなく医師や看護師等と連携をとって、総合的に利用者を把握していくことを継続していく。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員全体の意見を記入してもらい、また、本人や家族の意見も聞きながら作成している。		継続して利用者の支援にあたりたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	怪我や病気等で介護する状態が変わった場合、それに見合った介護計画を作成、家族とも相談し了解を得ている。		現状に合わせた介護計画を立てていけるように努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日時間を追って個人の生活を記録し、個人の状態を全職員が把握し、状態の変化に気がついた時には話し合い、介護方針を決めている。		今後は、個別の時間をさらに有意義にできるように、一人一人の個性や趣味を活かした支援をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複合福祉施設であり、日常的にいろいろな面で交流があるため、十分な協力体制が確保されている。状態の変化に対しては、各専門分野の方に助言や協力をもらい、状態に応じて対応、支援するようにしている。		ホーム内だけにとどまらず、複合福祉施設の特徴を利用して、他施設からの意見や考え方も交えて多機能性を活かしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館など利用させてもらっている。また、ボランティアの方にはいろいろ協力してもらいながら、利用者を支援させてもらっている。		最近ではスーパーでも買い物などに協力してもらっている。少しずつ地域の理解と協力を得られていると思う。今後、良い関係が築けていけるよう努力したい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、いろいろと相談させてもらい、その方にとって必要なサービスを受けられるよう支援している。		今後も本人の意向に添えるように、関係者と協働して支援にあたりたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括支援センターとの協働率は低い状態に感じている。		どのように協働していけばよいか、わからないため運営推進会議などを通じて関わり合いを持っていきたいと思う。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意見を聞きながら、かかりつけ医に状態を詳しく報告し、適切な医療を受けられるようになっている。		今後も継続して、利用者の支援にあたりたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療機関と連携がとれており、定期的に連絡、相談、受診を行っている。		今後も継続していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医や併設の介護老人保健施設、ケアハウスの看護師と協力、相談できている。		毎日連携している施設とのミーティングがあり、利用者の健康状態等を伝え、何か会った場合にすぐ対応できるようなシステムがある。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	そのような場合には、相談をするように心がけている。		そのような場合には、情報交換や相談に努め、連携してその利用者を支えていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の相談を家族と話し合いをし、その後常態にあわせて今後についての方針を考えていくようにしている。		複合施設のため、本人や家族からの相談等に対し、専門職から適切なアドバイスが得られる状況になっている。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日々の状態を職員同士で話し合ったり医師や家族と密に連絡を取り合っている、状態の変化がみられた際も職員、看護師、医師、家族にて話し合い、それに見合ったサービスや変化に備えて検討や準備を行っている。		複合施設のため各専門職からの協力が得られ、本人や家族の意向を含め、利用者に対してチームでの支援を行うことが可能であり実施している。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者本人とその家族の方々の状況を第一に考え、ケア関係者との話し合いをちゃんと行うように努めている。また併設の施設との住み替えが多くあるが、その時は確実に利用者にダメージの少ないようケア関係者と話し合いの場をもっている。		利用者にとってダメージを少しでも軽減できるように、各関係者と協力しながら支援にあたっていきたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>話をする内容をよく聴き、一人ひとりに合った話し方をしてプライバシーを損ねるような言葉かけや対応にならないように心がけている。</p>	<p>秘密保持の原則を守り、個人のプライバシーを大切にしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員は利用されている方一人ひとりに合わせて、その方が答えやすいと思われる質問を考えて話かけ自分の意思をできるだけ表現してもらえよう心掛けている。</p>	<p>認知症の程度により利用者の意思を表せる範囲が違うが、職員はその人その人を理解し、その利用者が意志を表せるような雰囲気・話し方・説明等を行い、利用者が自分を表現できるような支援をしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>おおまかな1日の流れはあるが本人の意思決定を尊重し、その方の過ごしたいようにしてもらっている。</p>	<p>つい職員側の都合に合わせた流れになってしまっていることがある。そのたびに職員の誰かが気づき、直している。今後も引き続き利用者を中心とした支援をめざしていく。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望や家族の希望を聞いて、理美容院を利用してもらっている。</p>	<p>その人らしい身だしなみ・おしゃれができるように、できるだけ支援をしていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>地元の食材を中心にした献立を栄養士が作成し、また利用者から食べたい物を聞いた時メニューに入れりしながら職員と利用者が一緒に準備、食事、片付けを行っている。また、山餅作りなどの郷土料理も作り利用者の方には楽しんでもらっている。</p>	<p>もっと積極的に利用者の食べたい物を聴き、多くメニューに取り入れていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者からの希望がある時はその時間帯にもよるができるだけ希望に添えるように支援している。</p>	<p>現在館内禁煙のため喫煙は出来ないが、その他の楽しみについては可能な限り支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	身体状況に応じた物を使用するだけでなく、その方に合わせた時間のトイレ誘導や介助を行っている。		家族の方に状況などを伝えているが、会うことの少ない家族には詳しいことなどが伝えきれていないので、どの家族にも状況が変わったら、詳しく伝え、相談していききたいと思う。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意見を尊重し、好みの時間帯に入れるようにしている。		現在行っている通り続け、利用者の気持ちなどを常に考えていききたいと思う。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各利用者によって安心できる場所が、居室であったり、人がたくさん居る所だったりするため、その方に応じて対応するように心がけている。		その方にあった支援を行っていききたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとり得意な事、出来ることを役割として行っている。		本人が行ったことを否定するのではなく、して頂いて「助かった」「ありがとう」と感謝の気持ちを言葉にし、気分を害さないような支援をしていく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居されている方の状態に応じて、財布などを持ってもらっている。		利用者本人の状況と希望を家族と相談しながら、お金の所持や使うことの支援を行っていききたいと思う。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居されている方が高齢となり、なかなか外出が困難な状況になってきているが、入居されている方の状態に合わせ、畑仕事や天気の良い日には散歩に出かけるなど、外へ出かけるよう支援している。		外に行きたいけど歩けない、面倒だという方には、車椅子を使用してみたりして、できるだけ外の様子・外の空気に触れることができるようにしていきたいと思う。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望がある時は家族に相談し、なるべく実現できるようにしている。		利用者の方が一番安らげるのは、やはり家族とのふれあいだと思うので、家族の方にも協力していただけるように努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添えるように支援している。		利用者の希望に添えるように支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームに来られた方には、居室や食堂などゆっくりと過ごせる場所で面会をしてもらっている。		いつでも気軽に訪問してもらえるような雰囲気を作っていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行われたことはない。拘束に関する取り決めがあり、職員は周知している。		現在まで行われたことはなく、これからもそのようなことのないケアを目指していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの構造上開放できないところもあるが、出来る限りの場所は開放している。		居室に鍵がある。利用者が自ら鍵をかけることはあるが、職員から鍵をかけることはない。今後も今までの通りの対応をしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	危険予測を忘れないようにして、昼夜を問わず入居者の状態を把握し、事故や怪我のないよう安全に配慮している。		今後も継続して、利用者の安全について考えて支援していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本当に危険かどうかを職員で話し合い、また家族にも相談し結論を出すようにしている。		今後も継続していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと報告書・事故報告書などを記入し、今後の対応などについて話し合いを行っている。		事故まで至らなくても報告書を記入することによって反省をしたり、今後気を付けようという気持ちを確認するので、改めて事故を防止するためにも記録をし、各職員が必ず目を通しそのようにならないためにはどうしたらよいかを皆で考えて、それぞれのケースに対応していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがある。また、緊急時に対応できるように普通救命講習を職員全員が受けている。		今後も定期的に救命講習を受講したり、勉強会を行ってきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行い、非常時の対応マニュアルも作成してある。		複合施設なので施設間の連携はできているが、地域の人々に協力を得られるような働きかけはしていないので考えていかなければならないと思っている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の方の面会時や、利用者の体調の変化があった際は、こまめに連絡を取り現在の状況などを説明し、今後考えられることに対してどのようにしていくかを話し合うようにしている。		利用者の状態を観察し、今後起こり得るリスクを家族の方々と相談し対応策をきちんと考えていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の観察の他に毎朝バイタルサインチェックを行い、変化の見られる場合や、いつもと状態が違い場合にはその状態に応じて医師・看護師に報告し、指示をもらっている。状態により、すぐ家族にも連絡している。		今後も継続して利用者の体調の変化の早期発見と対応に努めていく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の内服薬について承知するようにし、医師の指示通りに内服するようにしている。症状に変化のある時は、医師・看護師・家族に相談・報告し、その都度対応している。		現在の状態を継続していく。また、新しい職員が入った時には利用者一人一人の薬についてきちんと指導し、利用者が安全に服薬支援を受けることができるようにする。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日体操に参加してもらい、水分を多めに取るよう心がけている。又、排便記録を付けている。		今まで便秘でなかった方でも、いつの間にかスムーズな排便が出来なくなっている時があるのでよく観察していききたいと思う。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の観察を行い、必要な方にはブラッシング介助・入れ歯洗い介助等を行っている。毎日食後にはイソジンうがいを行っている。歯科の受診が必要と思われる方には、家族に相談・状態の報告を行い、歯科受診を勧めている。		必要な方だけではなく、自力で行っている方に対してのブラッシング後のチェックを行い、磨き残しのある時は一部介助していききたい。そして利用者各々の口腔内の状況を把握していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の作成時に栄養士がカロリーなどを考えている。また水分摂取量や、体重なども把握している。		継続して支援にあたりたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルがあり、各感染予防の実施をしている。手洗い・うがいを行うほか、インフルエンザ予防接種・寝具の清潔保持・洗濯の仕方など気をつけている。		マニュアルはあるが、勉強会などを開催し原因や対応策などについての知識を増やしていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週2回の買い物を行って、新鮮な食材を購入している。また畑で野菜等を作ってあり、それを使っている。消毒などは担当職員を決めてこまめに行っている。食事関係の衛生面は管理栄養士による指導を受け対応している。		痛みやすい食材などは、購入後すぐに使用するようになっている。衛生面にも気を使っているが、食材の管理にも今後も気をつけていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	知人に頂いた球根や花を、玄関前に入居者と友に植えたり、ホームの前にも表札を掲げている。		飾るだけでなく、常にきれいな状態であることを心掛け、入りやすい玄関を目指してく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には手作りの物・写真・季節の花などを飾ったり、装飾に関しては、入居者の方の作品を中心にしている。なるべく家庭的になるように心がけている。		今後も引き続き配慮し、さらに良くなるように利用者と職員で作っていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内のいたるところに長椅子があり、また大小の居間があるのでそこを自由に使ってもらっている。		その人にとっての居心地の良い空間はどのようなものなのかを探り、提供できるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に「今まで使用していたものを入れて欲しい」と説明し、出来る範囲内でそのようにしてもらっている。		その人にとっての居心地の良い空間はどのようなものなのかを探り、提供できるようにしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホーム内は定時にオゾン脱臭されており、また温度・湿度・換気についても調節されている。		現在の状態を維持し換気・空調の配慮をしていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の至るところに手すりがあり、トイレの便座、物干しの高さも低く入居者の身長にあわせている。また混乱を招くような物は見受けられない。		利用者の状態に合わせた環境づくりを行っていきたいと思う。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレ等が分からない入居者に対しては『のれん』や『マスコット』などを用いて目印にしてもらい迷わないように工夫している。		誤認等を起こすような物があった場合は速やかに対応したい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	縁側に座って雑談・お茶のみをしたり、庭に洗濯物を干したりしている。植物も植えてあり簡単な園芸、草取りもしている。		利用者には四季を感じてもらえるような活動を今後もしていきたい。